

ちあきくひあせは即く居もぬく鷹ハそのまは木乃
枝は木根よりて飛よかた犬のまの巾より雉を追ひさむと
それども雉の足跡も不知唯ハはゆきながら居ハ犬も鼻で
つめて追ひしものうねとよみ居へるやさき犬もきこ
くへぬと片にありとさく鷹もやがてくへぬべくさゆれ
るよお鷹と鷹人のあそびをかう時を犬前足で押くし
おへ飛ぶよりにとありとえかう犬はいと帰あつりのやあのと
幼犬のく鼻さうぬるものとぞ塙本ハを冬の節小入く
二句雉と推とあやまれし羽のさうちとありハ木根より
雉をまの中は落さう犬もあのと犬のく鼻つけぬ